



(上) 下り待合室の横には、古いウィスキーの樽を利用した雨水の貯水槽、愛称・雨水くんを設置。

(下) 下りホームから望む、駅舎の裏側。

(左) 南に面して冬でも暖かい上りホームの待合室。



(上) 下りの待合室外観。駅名板は私たちの手作り。
(下) 国鉄時代の手書き看板をちやっさり再利用。



下りホームの待合室。むぎ出しの木組みが懐かしい。ホームの嵩上げ工事に伴って、木製ベンチも嵩上げされた。



(上) 現在は無人駅だが、改札横には当時のキップ売り場の窓が残る。左には暖房付きの待合室。
(下) 駅舎入口を入ると、そこは正統時代の雰囲気。

★「山野草の駅」として、四季を彩る植物群。駅前庭は貴重な山野草を育てる植物園。13年前に敷からホームに移植したノイバラ。お隣町、御代田の町花ヤマユリ。どちらも開花時には芳香を漂わせる。



那須 由莉：らびす舎・代表

多くの家庭実用書や生活情報誌の編集に携わる。2005年『暮らしの手帖別冊・あたらさん』の編集長として、創刊と同時に「しの鉄道・信濃追分駅」駅舎に「あたらさん編集室」を設置、別冊の休刊後も継続して駅舎を借り、現在に至る。「もったいない＝あたらさん」の知恵と心をコンセプトに、編集・制作と創作活動が続ける。信濃追分駅『オオヤマ桜を守る会』、軽井沢・借宿『ピオトープKBS』のメンバー。



★2006年の晩秋に現れてから変わらぬ姿で、野ネズミの被害から駅を守り続ける愛猫(フー)。



炊事室と並行に直宿室に使われた6畳の和室がある。仕切りの引き戸は、汚れを丸洗いしペイントで化粧。

願っています。
「山野草の咲く、昔の駅に戻したい！」と願っていた矢先、念じれば通ず！
編集室オープン翌月の翌月、駅の周辺に「オオヤマ桜」の苗木を植樹し、駅ホームに設置のプランターには山野草を植えるというイベントが！早速、主催の『オオヤマ桜を守る会』に参加して、地元の方々と手を携え、駅のガーデニングを計画しました。試行錯誤を重ねながら活動が続け、今では町花のサクラ草をはじめ、スズラン、ノイバラ、キキョウ、ユウスゲ、オミナエシ、ヤマユリ、ナデシコ：と季節を告げる草花が次々に顔を出します。高原は風が抜け昼夜の温度差もあり、紫外線も強いせいか、花色が鮮やかなことも発見でした。

追分ならではの駅舎活用を！
『あたらさん』という雑誌は残念ながら1年で休刊になりましたが、私たち夫婦は休刊後も駅舎を編集室として借り続けました。絵描きの夫は駅舎と町の多目的の小さな隙間に波板の屋根を渡してアトリエを確保。ここであれば到底味わえなかった手作りの暮らしです。駅舎に住めることに感謝しつつも、70歳を過ぎた頃から『この駅舎を地域の宝にしたい！』という思いが去来。オープンから丁度15年目の10月末に編集室を閉じることにしました。

3年後、信濃追分駅は100歳を迎えます。この貴重な駅舎を追分らしい場所として活用するにはどうしたらよいか、住民の皆さんと一緒に考えていきたい、行政も街づくりの一環として是非、後押しを！